

様式4

令和6年度 学校運営協議会評価報告書1

鳥取県立鳥取湖陵学校
 学校長 若林 安德

評 価 日	令和6年6月13日(木)	
評 価・提 言	学校の所見・改善策	
<p>1 目標設定について 教育目標が「多面的な取組で地域産業を担う専門人材の育成」というのは専門スキルをつけるということだと思うが、スキルだけではなく地域の高齢者は若者からエネルギーをもらっている。「協働」になったことで色々な立場で切り込んで行ける。地域でできることに高校生が例えば運営ボランティアで参加できるといい。</p> <p>2 評価項目と目標達成のための取組について 評価項目の具体項目が細かく分けられわかりやすくなった。</p> <p>3 具体目標について 中学生は普通化志向が強い。中学校としては専門高校のメリットアピールを望む。</p> <p>4 目標達成のための具体方策について 小学生にとって湖陵高校の生徒が何をしているのかを見せることで将来何をしたいか考える機会になる。キャリア教育の観点からもありがたい。保育士になりたい人は湖陵高校にいけば保育実習ができることをアピールするといい。 湖陵高校の体験入学に参加したが、5科のうち1箇所しか体験できなかった。</p> <p>5 その他 教室掲示の座席表は男女表記を無くすといい。 校舎内の「便所」表記は「トイレ」としてはどうか。</p>	<p>生徒のボランティア意識は希薄などところがある。公民館は学校の近くで連携が取りやすい。地域からの働きかけに湖陵生として応えていきたい</p> <p>今年度このように具体項目に見出しを付け、見やすくした。</p> <p>令和7年度の特徴入試は全科でプレゼンテーション検査とした。自分の体験が語りやすくなると期待している。</p> <p>高校生にとって異年齢交流は貴重な体験である。表情が優しくなる。継続したい。</p> <p>今年度は2箇所の体験にしている。</p> <p>対応を検討する。</p>	